

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「熊本県立熊本商業高等学校」

住所：熊本県熊本市中央区神水1丁目1番2号

電話：096-384-1551

I 学校の基本情報

○生徒数：1100人（27学級）

○職員数：78人

○過去の主な災害

昭和28年 熊本大水害

平成11年 台風18号による高潮被害

平成15年 集中豪雨による土砂災害

平成24年 熊本広域大水害

平成28年 熊本地震

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育年間計画について

期 日	具体的な内容
6/14	緊急地震速報を活用した避難訓練
6/23	第1回推進委員会
6/28	AED使用および心肺蘇生法講習
7/26	第1回学校運営協議会
7/26~7/28	先進地視察研修（兵庫県）
8/22	避難所運営ゲーム研修会
9/26	第2回推進委員会
11/1	緊急地震速報を活用したシェイクアウト訓練
11/17	避難訓練について学校安全アドバイザーとの打ち合わせ
11/29	緊急地震速報を活用した避難訓練
11/29	第2回学校運営協議会
12/12	第3回推進委員会

防災年間計画の作成にあたっては、従来の防災教育活動に加え、新たな取組をどのようにつなげるかという点に留意して立案した。また、計画した内容がその時の一過性にならぬよう配慮した。多くの方々からアドバイスを頂き、様々な角度から捉えた意見に耳を傾け、防災計画を立案するよう心がけた。

(2) 緊急地震速報受信システム等を利用した避難訓練の実施

これまではインターネットからダウンロードした緊急地震速報の音源と放送機器を合わせて活用し、避難訓練を実施してきた。

緊急地震速報受信システムが導入されたことにより、緊急時は勿論のこと、避難訓練の際にも同システムを活用できるようになった。

11月に同システムを活用し、地震及び火災を想定した防災避難訓練を実施した。緊急地震速報が流れ、自分の身を守る放送が流れている最中でも、火災警報のスイッチが入れば火災警報が優先される仕組みになっていた。

このシステムの導入により、地震及び火災を想定した複合的な訓練の実施が可能となった。



緊急地震速報受信システムを操作する様子



2 被災地支援を通じた体験型防災教育の推進

(1) 仮設住宅ボランティア活動、避難所運営ゲーム

8月22日にモデル校となっている各学校の生徒たちで避難所運営ゲーム研修を行なった。講師として、福島県うつくしまふ



くしま未来支援センター 福島大学の本多環

特任教授にお越しいただき、防災に対する心構えや事例の紹介をして頂いた。その後、避難所運営ゲームの説明及びワークショップを行った。

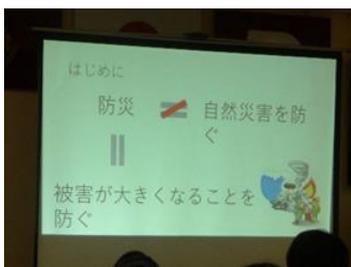
ワークショップの班は、別々の学校の生徒ごとに構成されていたため、最初は皆戸惑っていたようだが、研修が進むにつれ、次第に互いの意見を言い合えるようになった。また、昨年度の熊本地震を通じて、自ら体験したことや気付いたことがこのワークショップへの取組をより一層真剣なものにさせていたように感じる。この研修に参加して学んだことを、今後の自身の防災活動に生かしてもらいたいと考えている。

(2) 学校独自の取組

平成28年4月の熊本地震の際、避難所指定の有無にかかわらず近隣の方々が多く避難して来られた。食料などの備蓄もなく、その対応に大変苦慮した。

現在、隣接する砂取小学校と本校のフェンスの一部を開閉式に変更し、緊急時の情報交換や物品の搬入・搬出ができるようにしている。

また、熊本地震を踏まえ、保護者代表や地域住民の代表者、砂取小学校長、警察署、消防署、熊本市役所・水道局職員を委員として推薦し、学校運営協議会を設置し



ている。

《第1回学校運営協議会》

7月26日、第1回学校運営協議会を本校にて開催した。まずはじめに、本校における防災教育の取組について紹介した。次に協議題として①熊本地震における施設・物資及び運営面での課題について②今後の防災教育の在り方についてという内容で検討をし、最後に本校の施設見学を行った。

《第2回学校運営協議会》

11月29日、第2回学校運営協議会を本校にて行った。この日は、午後から防災避難訓練

を計画しており、協議委員の方々にも本校の防災



避難訓練の様子を参観して頂いた。訓練後、①今回の防災避難訓練の目的及び方法②本校の避難所としての施設利用計画の策定についてという内容で検討を行った。

3 学校安全(防災)アドバイザーの活用

11月29日の防災避難訓練にあたり、11月17日に学校安全アドバイザーに、防災避難計画の内容を確認して頂いた。これまでの訓練時では、避難に際して駆け足で行うよう指示をしていた。しかし、災害時は階段の踏み外しなどによって二次災害につながる恐れがあるため、今回の訓練からは駆け足避難をやめ、周りの安全を確認しながら、落ち着いて避難するよう変更した。このことにより、以前よりも安全にかつスムーズな避難ができるようになった。

また、今回、雨天時を想定した訓練も同時に行った。訓練を通して、どのエリアが混雑



するのかを実際に知ることができた。今回の訓練で得た課題を整理し、次回の訓練につなげた

い。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 成果

従来までの防災避難訓練に加え、年間を通じた安全教育手法の開発・普及により、防災意識の向上につなげることができたように感じる。実際、授業中に発生した地震の際、躊躇することなく机の下に隠れる生徒を目にすることができた。災害時にどう身を守るかという訓練をしているからこそその行動であったように思う。

(2) 課題

幸いにも今年度は、本事業のモデル校として先進地視察や資料センター見学を通して、見識を深めることができた。また、推進委員会への参加によって、専門的知識を持っておられる方々から様々なアドバイスや資料提示をして頂いた。この経験をもとに来年度以降は、これまで立案および実施してきたものをさらに発展させなければならない。いかに深化させられるかが、今後の課題になると考える。

2 被災地支援を通じた体験型防災教育の推進

(1) 成果

次に書いているのは、避難所運営ゲーム研修に参加した本校の生徒たちの感想である。

ア 災害時に多くの命を救うためには防災意識を高く持つことが重要だと感じた。

イ 自分だけで考えるのではなく、周囲とコミュニケーションをとり、互いに考えを伝え合うことの大切さを学んだ。

ウ 熊本地震の時、行動することができなかったのが、どう行動すべきなのかを知りたくてこの研修に参加した。多くのことを学ぶことができたが、まだまだ知識が不足していると思う。もっと学んでいきたい。生徒たちの感想からわかるように、多くのことを感じ、学ぶことができた研修だったようだ。

(2) 課題

避難所運営ゲーム研修は、講師の方から説明を聞き、参加する生徒が主体的に考え、班で協力して取り組まなければならない。

この取り組みは大変有益なものだと考えているが、学習を通じて熊本地震を思い出し、内的・外的反応が出る生徒がいることも考えられる。生徒の様子に配慮しながら、今後、実施の方法について検討を重ねたい。

3 学校安全(防災)アドバイザーの活用

(1) 成果

例年実施している防災避難訓練について、指導と助言を頂いた。その中でも、「生徒たちを走って避難させるのではなく、周りの状況を確認させながら、落ち着いて避難させること」「あえて混雑する避難経路を訓練時では生徒たちに通らせ、避難にどれほどの時間を要するのかを把握しておくこと」などのご指摘を頂いたことが大変印象に残っている。次年度以降も、これら言葉を思い出し、計画の立案および指導に当たりたい。

(2) 課題

緊急時、怪我をしている生徒などを安全に避難させるために、我々教師は勿論のこと生徒たちにも担架の使用方法を学ばせておかなければならないと感じている。機会あるごとに生徒たちに使い方を教え、生徒たちで担架を活用できるよう、次年度以降の課題として取り組みたい。